

(様式第1-2号)

平成22年度 農業主導型6次産業化整備事業実施計画

1 6次産業化法人について

(1)6次産業化法人の概要

6次産業化法人の名称	組織の形態	代表者名	設立年月日
有限会社 トムミルクファーム	農事組合法人以外の農業生産法人	沖 正文	平成10年4月1日
主たる事務所の住所	広島県東広島市豊栄町乃美1083番地5	TEL FAX	セキュリティに配慮し、 非公開といたします。

(2)6次産業化法人の構成員

構成員の氏名	年齢	住所・所在地 (都道府県市町村名)	出資金額	出資比率	備考 (農業生産法人である場合)
当該項目については個人情報を含むため、非公開といたします。					
3			3,000,000 円	100 %	

(注) 備考欄には、農業生産法人である場合に農地法第2条第3項第2号に掲げる要件のいずれかを記入すること。この場合、常時従事者は「常」、農地等の使用収益権を移転・設定しているときはその旨を記入すること。

(3)6次産業化法人の経営状況

項目	
総収入(A)	当該項目については企業の経営内容の詳細を含むため、非公開といたします。
総支出(B)	
売上高(C)	
営業利益(D)	
経常利益(E)	
当期利益 (A-B)	
総資本(G)	
自己資本(H)	
総負債(I)	
収支率 (A/B × 100)	
総資本経常利益率 (E/G × 100)	
売上高経常利益率 (E/C × 100)	
負債比率 (I/H × 100)	

- (注)
- 1 総収入 = 売上高 + 営業外収益 + 特別利益
 - 2 総支出 = 売上原価 + 販売費及び一般管理費 + 営業外費用 + 特別損失
 - 3 営業利益 = 売上高 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費
 - 4 経常利益 = 営業利益 + 営業外収益 - 営業外費用
 - 5 負債比率 = 総負債(他人資本) ÷ 自己資本 × 100

(4)6次産業化法人の現状及び課題

<p>現状と課題</p>	<p>[概要] 広島県豊栄町で昭和25年から家族経営で酪農を行ってきたが、父の怪我がきっかけで、家族経営での酪農の将来に不安を感じたことから、平成8年に、牧場規模拡大を図る中で雇用型の酪農経営となり平成10年度に法人化し(有)トムミルクファームを設立した。平成16年には低温殺菌ビン詰め牛乳「十夢みるく」の販売を開始し、平成17年には牧場の牛乳を利用したアイスクリーム等の製造に着手し、施設内の直売所にて販売をおこなっている。 採草地は借地、転作田を合わせて、約8ha、飼料稲の供給も5haの契約を結び、地域での耕畜連携を進めている。</p> <p>[沿革] 昭和25年 牧場設立 平成10年 法人化、(有)トムミルクファーム設立 平成16年 低温殺菌ビン詰め牛乳「十夢みるく」販売開始 牧場見学者800人 平成17年 第1回春の牧場まつり実施 直売所「十夢」開店(アイスクリーム製造、販売開始) 平成19年 農商工連携により、全国展開事業に商工会として取り組む 「心のふる里県央協議会」を組織 平成21年 牧場体験学習3,800人 牧場来場者45,000人 平成22年 第6回春の牧場まつり実施(来客4,000人)</p> <p>[商品] (牛乳) 「十夢みるく」委託製造した低温殺菌ビン詰め牛乳の販売 (乳製品) アイスクリーム、焼き菓子、ミルクプリン、生キャラメル</p> <p>[所得] 構成員の平均所得は約4,500千円 従業員の平均所得は約3,000千円</p> <p>[雇用] 雇用者は、酪農部門4名、加工部門10名の計14名</p> <p>[事業に取り組むこととなった背景] 低温殺菌ビン詰め牛乳「十夢みるく」を委託製造し、販売を始めたところ牧場見学等が急に増え、ビン詰め牛乳や関連商品の問い合わせも増えてきた。 そこで、加工施設の開設調査のために牧場祭りを開催し、消費者の好感触を得たことから、アイスクリーム製造許可のある直売所を開設した。 アイスクリームと牛乳を中心に取り組んできたが、年々来客数も増加し、商品アイテムを増やすために、菓子製造室を平成19年に整備し、手づくりのクッキーから、ミルクプリン、流行の生キャラメルとアイテムを増やしてきたところである。 また、同時に牧場自体の緑の草原、里山の風景、又牧場の牛から小型のヤギ、ポニー、ロバ、豚など自然と動物とのふれあいなど都会にない環境がこの地に人々を集めてきており、さらに農場自体の施設の充実が不可欠になってきたところである。</p>
<p>6次産業化の展開方針</p>	<p>[6次産業化の展開方針] 現在、牛乳は、ビン詰めの牛乳のみを委託製造しているが、価格面で高価となっていることから、今後は、流通・販売が容易な紙パック詰めの牛乳を含め自社で製造する。 また、来場者の増加により加工品の需要が急増しているため、菓子製造室、アイスクリーム製造室の増設、新商品のミルクジャム、カスタードプリンの製造を行うこととする。 さらに、イベント時の来園者、見学者、体験学習等の参加者を対象としたレストランや体験ルームの整備を行い、所得の向上を図るとともに、安定した雇用の場を確保し、地域の活性化に寄与していくこととしている。</p>

①農業生産

作物・部門別	計画時		目標年度	
	作付面積等	生産量	作付面積等	生産量
飼料作物	8 ha	240 t	12 ha	400 t
飼料作物(飼料稲供給)	5 ha	120 t	10 ha	240 t
生乳	130 頭	1300 t	130 頭	1300 t
肥育	ha	1 頭	ha	2 頭

②加工(2次産業分野)

作物・部門別	内容	製造量	
		計画時	目標年度
アイスクリーム類製造	ジェラート直売、カップ・バットアイス	14,567 g	28,667 g
菓子製造	ミルクプリン	419 kg	1,265 kg
菓子製造	カスタードプリン	0 kg	960 kg
菓子製造	焼き菓子	40 kg	100 kg
菓子製造	生キャラメル	363 kg	220 kg
菓子製造	ミルクジャム	0 kg	500 kg
乳処理(ビン牛乳)	計画時委託製造から自社製造へ	18 t	22 t
乳処理(紙パック1000・200ml)	目標時ビン・紙パック自社処理製造へ	0 t	30 t
レストラン	ランチ・弁当他	0 人	40,000 人
体験事業	牧場体験・連携によるものづくり体験	3,800 人	10,000 人

③流通・販売(3次産業分野)

作物・部門別	内容	販売額	
		計画時	目標年度
アイスクリーム類製造	ジェラート直売、カップ・バットアイス	21,850 千円	43,000 千円
菓子製造	ミルクプリン	800 千円	2,415 千円
菓子製造	カスタードプリン	千円	2,400 千円
菓子製造	焼き菓子	140 千円	350 千円
菓子製造	生キャラメル	3,300 千円	2,000 千円
菓子製造	ミルクジャム	千円	2,750 千円
乳処理(ビン牛乳)	計画時委託製造から自社製造へ	12,000 千円	13,000 千円
乳処理(紙パック1000・200ml)	目標時ビン・紙パック自社処理製造へ	千円	13,597 千円
レストラン	ランチ・弁当	千円	30,000 千円
体験事業	牧場体験・連携によるものづくり体験	2,000 千円	10,000 千円

2 連携法人について 該当なし

3 成果目標及び達成プログラム

(1)目標設定

項目	計画時 (平成21年度)	1年度目 (平成22年度)	2年度目 (平成23年度)	3年度目 (平成24年度)	4年度目 (平成25年度)
(所得の向上に関する成果目標) 売上高の増加	191,387 千円	205,272 千円	233,045 千円	256,932 千円	272,389 千円
	— %	107 %	122 %	134 %	142 %
(雇用の創出に関する成果目標) 雇用者の増加	14 人	15 人	23 人	24 人	24 人
(地域の活性化に関する成果目標) 集客人数の増加	45,000 人	60,000 人	80,000 人	100,000 人	112,500 人

(2)目標設定の考え方

項目	目標設定の考え方
(所得の向上に関する成果目標) 売上高の増加	店舗来客者の増加による相乗的な販売の増加と、乳処理施設の新設による販売量の増加、菓子製造室とアイスクリーム製造室の増築による生産量の増加又新商品の生産によるものと新規のレストラン部門の売上を見込んで目標年度までに8千万円の売上増加を見込んでいる。
(雇用の創出に関する成果目標) 雇用者の増加	乳処理施設の新設、菓子製造室とアイスクリーム製造室の増築又、新商品の生産と、新規のレストラン部門及び、牧場の体験学習事業の拡大を図ることとしており、このため、常時雇用で4名、臨時雇用者で6名の新規雇用を見込んでいる。
(地域の活性化に関する成果目標) 集客人数の増加	地域内にて酪農家の展開している類似施設においてもすでに12万人を超える集客を達成しており、同じ酪農家ではあるが当牧場は飼育頭数も約8倍の規模であり、牧場周辺の広い牧草地の条件を活かした、店舗作りと、牧場規模ゆえのスタッフの多さを利用し、食育を含めた体験学習メニューを作成し、心のふるさと県央協議会(※)や、市内の学校等と連携した展開で、46団体(21年)を受入れており、口コミでの広がりを見せている。目標年に向けて120団体への増加を見込む。 レストランの開設で、個人客から、団体の体験での食事の提供まで、地域食材色豊かなメニュー展開を図り、地域密着型の店舗展開により、地域内回遊客の増加と、リピート客を増やす事で、集客の増加を図る。 ※ 商工会内の体験事業を研究しているグループ

4 整備計画等

(1)施設等の整備計画

No.	事業主体名	整備内容		工期		機械・施設の設置・保管住所
		施設名	事業量 (規模、台数等)	着工 年月日	竣工 年月日	
1	(有)トムミルクファーム	農畜産物加工施設	1棟、91㎡ 乳処理施設設備	平成22年12月20日	平成23年3月15日	東広島市豊栄町乃美1083-5
2	(有)トムミルクファーム	農畜産物提供施設	1棟2階、196㎡ レストラン・加工 施設設備	平成22年12月20日	平成23年3月15日	東広島市豊栄町乃美1083-3

No.	総事業費	負担区分			融資先		備考
		国庫補助金	自己資金	その他	金融機関名	償還年数	
1	27,037 千円	10,290 千円	16,747 千円	千円	しまなみ信金	12年	国庫補助率1/2以内 含稅額
2	30,195 千円	15,000 千円	15,195 千円	千円	しまなみ信金	12年	国庫補助率1/2以内 含稅額
計	57,232 千円	25,290 千円	31,942 千円				

- (注) 1 工期欄には、申請時においては着工及び竣工予定年月日を、実績報告時には実際の着工及び竣工年月日 を記入すること。
 2 担保欄には、補助対象物件を担保に供し、自己資金の全部又は一部を金融機関から融資を受けようとする場合 に記入すること。
 3 備考欄には、国庫補助率を記入するとともに、仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には減額した金額を、仕入れに係る消費税相当額がない場合には「該当なし」と、仕入れに係る消費税等相当額が明らかでない場合には「含稅額」とそれぞれ記入すること。
 4 補助金実績報告時において、承認のあった事業実施計画のうち整備計画の内容に変更が生じた場合には、本様式の4の(1)整備計画を修正して添付すること。

(2)事業費低減の方策

施設等名	事業費低減の具体的方策
農畜産物処理加工施設	既存の建物とのつながりを考慮して、最低限の施設とし一般競争入札をする。
農畜産物処理加工施設設備	出来るだけ中古又は、既存の機械設備を活用することとし、新たに導入する設備は一般競争入札を行う。
農畜産物提供施設	建設工事に当たっては、一般競争入札により事業費の低減を図る。
農畜産物提供施設設備	出来るだけ既存の設備などを利用して低投資で最低限の施設とし、一般競争入札により事業費の低減を図る。

(3) 関連事業 該当なし

(4) 機械・施設等の利用計画

事業実施主体 (管理主体)	構造・規格	規模・台数	管理運営 従事者	利用(稼働)期間	施設運営に係る 収入/年間(千円)	施設運営に係る 支出/年間(千円)
(有)トムミルクファーム((有)トムミルクファーム)	木造1階 (農畜産物処理 加工施設) 木造2階 (農畜産物提供 施設)	1棟91㎡ (加工設備 一式) 1棟196㎡ (設備一 式)	職員 7人 パート 13人	年間300日	(内訳) 119,512	(内訳) 68,936

対象作目	稼働計画(処理量)/年間	適正かつ十分な利用が見込まれる理由
牛乳 (乳処理)	生乳53.7トン	現在委託製造にて年間18トンの生乳の処理をしており、当牧場に一回最大200kg/日の処理量の施設で300日の稼働を見込む。 既存のビン牛乳の製造に加え、紙パック牛乳の生産ラインを設置し、持ち帰りやすい商品、又200mlの飲み切りサイズによる販売増を見込む。

対象作目	稼働計画(処理量)/年間	適正かつ十分な利用が見込まれる理由
牛乳等 (農家レストラン)	3,000万円/年間	現在店内客席は約12席であるが、増設部分と連結して客席を増やす。 また、2階の室内も客室兼体験スペースとして利用し、壁等には体験の記録や、体験者の製品の展示をするなど、牧場のこだわりや、食育の場としての活用を図るとともに、2階テラスや、1階のテラス下からポーチにかけても、テーブルの配置をして屋外での食事場を確保する。 2階の広間を利用した体験メニューの充実を図り、食事込みの内容を提案することで現在の体験参加者2千名から8千名以上の増加が見込まれる。 さらに平日等の空き時間を利用した、仕込みや、業務用に地域食材をレトルト処理したものの提案をしていき、直売以外での調理場の稼働を上げ年間4万食を提供することで約3000万円の売上げを目指す。

対象作目	稼働計画(処理量)/年間	適正かつ十分な利用が見込まれる理由
牛乳 (アイスクリーム製造)	28,667リットル	店舗増築に伴い、現在の製造室を1.6倍の26㎡に増築し、予備的に確保している機材を設置し、又品質の向上対策兼、製品ストック場として、3坪のプレハブ冷凍庫を整備して、アイスクリーム製造の拡充を図り、来客数の増加と、卸の依頼量の増加を可能とし目標とする販売量製造にむけての、体制の整備を進める。
牛乳 (菓子製造)	3.045トン	牧場ならではのスイーツの展開は、商品のバリエーションに大きく反映でき、客単価を上げていくためにも、持ち帰り商品としてや、ギフト商品の開発には欠かせないものであることから、現在の3倍の製造室を確保する。 ミルクプリンの増産又、地域の養鶏農家と連携してのカスタードプリンの開発を始めており新規商品の製造を可能とする。 又業務用として当社とのマッチングする中での製造依頼への対応強化で製造量の増加を行う。 商品アイテム数の増加も含めてフル活用を見込む。

(注)1 機械・施設等ごとに作成すること。

2 処理量は機械・施設等に応じて、(t・千円・ha)等を記入すること。

5 費用対効果分析

項目	効果等	備考
総事業費:A(千円)	57,232	
1 効果の内訳(年効果額):B(千円)	10,095	
(1)直接効果	3,295	
①生産向上効果	27,928	
②経費節減効果	-43,841	
③経営基盤保全効果	0	
④農外所得増加効果	19,208	
(2)間接効果	6,800	
①地域所得増加効果	6,800	
②洪水防止効果	0	
③水源かん養効果	0	
④土壌浸食防止効果	0	
⑤土砂崩壊防止効果	0	
⑥有機性廃棄物処理効果	0	
2 直接効果比率:直接効果額/年効果額	0.326	
3 廃用損失額:C(千円)		
4 還元率:D	0.1	
5 総合耐用年数	13.6	
6 妥当投資額:E=B/D-C	104,198	
7 投資効率:F=E/A	1.82	